

第10回例会 2014.09.01-2014.09.05 [会長挨拶]

みなさん、こんにちは。2730ジャパンカレントロータリーEクラブ第10回例会を開催いたします。

夏休みも昨日で終了し、本日から9月であります。今日はロータリーでは「新世代のための月間」であります。

1979年に RI は「ロータリーは子供を大切に」というスローガンを採択し、また「ロータリーは、青年の規範 ”Every Rotarian an Example to Youth”」の標語を採択しております。

「新世代」という言葉は、ルイス・ビセンテ・ジアイ元 RI 会長が初めて使いました。ジアイ元会長は若い人々にロータリーのプログラムと活動にもっと参加してもらうことこそ、ロータリーの将来を確かなものにするためのカギであると信じていました。1996年カルガリー RI 国際大会で元会長は次のように述べて おります。

「成功と失敗を分かち要素は、未来へのビジョンです。これは、かつてないほど真実であると言えます。新世代は未来への投資です。今日から、未来を築き始めようではありませんか」

2010年の規定審議会で、新世代奉仕はロータリーの活動の土台でもある、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕に次いで第五の奉仕部門として承認され、重要性が強調され、クラブ定款第5条に以下のように定義されています。

「奉仕の第五部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。」

そして、この五大奉仕部門ですが、昨年度の規定審議会で「新世代奉仕」から「青少年奉仕」となり、原文についても **New Generations Service** から **Youth Service** へと変更されておりますが、今のところ月間名についてはそのまま「新世代のための月間」であります。

ロータリーでは青少年に関するプログラムもいくつか用意をされており、インターアクトやローターアクト、ロータリー青少年指導者プログラム(RYLA)、ロ

ロータリー青少年交換など様々なプログラムがあります。

このように私たちの活動の範囲を若い者に広げることはロータリークラブの未来への投資となり、それぞれの地元の青少年や若者とのつながりを築けば、将来の 会員候補者の育成につなげるだけでなく、その若者たちが社会に出た時に社会全体が良くなっているように今後私たちのクラブの活動も計画していかなければなりません。みなさまの青少年に対する理解をよろしくお願い致します。